

【赤松小三郎エッセイ賞】

赤松小三郎と私

金井 悠瑛

(16歳、長野県上田市、学生)

私に将来の夢を与えてくれた人物。それが赤松小三郎である。

私の赤松小三郎との出会いは、小学校三年の時。「信州・上田今昔散策マップ」というパンフレットで赤松小三郎の業績を知った。近代国家誕生に大きな影響を与えた人物が上田出身であることを知り、虜になった。そして、小学校六年の時に「上田の風 ふたりの先生」という映画を見て以降、講演会に聞きに行ったり、赤松小三郎記念館を訪れたり、月窓寺でお墓参りをしたりと彼の業績を学ぶ活動をしてきた。特に私が心を打たれたのは、議会制度の導入や議員選挙制を、封建制が残る江戸幕末期にすでに提言していたことだ。一方で、小学校や中学校で歴史を学ぶようになってきたが、日本史史上類を見ない業績を残してきた赤松小三郎について教えられる事は無く、むなしさを感じていた。

そこで、上田高校の探究の授業で赤松小三郎について研究発表をした。学校の授業では教わらないが、日本の近代化の基礎を作った人が上田出身であるということをも自分の手で広めたいという思いを形にした。「発表を聞き、赤松小三郎について興味を持った。」という発表者冥利に尽きる言葉をいただき、多くの上田高校生に赤松小三郎の業績と素晴らしさを伝えることができた。また、発表したスライドを動画にしてYouTubeに載せた。こちらも多くの人に視聴してもらえた。ゆくゆくは上田地域の学校で赤松小三郎について学ぶ機会が設けられるように、これからも活動していきたい。

冒頭で将来の夢について述べたが、赤松小三郎が与我えてくれた私の夢とは、政治に関わる仕事に就くことである。赤松小三郎は、先見の明をもち、未来にまで通用する日本のあり方を考えていた。この夢を実現することができた際には、150年近く前に日本を良くしようと提唱した民主主義を現代においても守っていきたい。そして、赤松小三郎のように未来を見据えた日本を作る手助けを、政治の力で行っていきたい。

【選考理由】

赤松小三郎の業績を知って以来、学びを重ね、高校の授業での発表などを通じて、その業績を世に広めるための実践活動を行ってきた、筆者の赤松小三郎に対する強い思いと行動力が強く感じられるエッセイである。

赤松小三郎が与えてくれた夢を自ら政治に関わる仕事に就くことで実現したい、との決意も述べられている。

（「赤松小三郎エッセイ賞」選考委員会）